

◆とき 平成11年

7月22日

(木曜日)

開場18時30分 開演19時

◆ところ

黒部市国際文化センター

コナラレ (野外能舞台) (限定400席)

解説

火入の儀

素囃子 神舞

狂言 棒縛

狂言 博奕十王

闇に浮かぶ能舞台、  
水面に揺れる二本のかがり火、  
野村万作・萬斎親子が誘う幻想の世界。

# 野村万作 新狂言の会

入場料(全席自由)一般5,000円・高校生以下2,000円  
主催/財団法人黒部市国際文化センター  
協賛/チューリップテレビ・エフエムとやま  
後援/黒部市・黒部市教育委員会  
お問い合わせ/コナラレ TEL0765(57)1201



コナラレ風のうたげ'99

◆ツレイカイト

- (黒部市) コナラレ
- メルシー
- ロイヤルハリ黒部
- (魚津市) 新川文化ホール
- 魚津サンプラザ
- (入善町) コスモホール
- コスモ21
- (宇奈月町) 宇奈月国慶会館
- アスカ
- (富山市) インフォマート「市民プラザ」
- (高岡市) 高岡大和



私どもが定期的に薪狂言の公演をさせていただいているのは、コラーレと新潟県の松之山である。

薪狂言形式での狂言独自の公演は、ニューヨークのリンカーン・センターの池の上に舞台を作り、「三番叟」や「棒縛」を演じた時に始まるが、15年も前のことになる。水の上に舞台姿が映り、素敵な雰囲気醸し出された。コラーレの能舞台前の水もそれを思い出させるよい情景である。屋外での公演では、動きの多い、賑やかな狂言を選ばねばならぬ点に苦心もあるが、解放された環境での観客と演者との交流は、室内では味わえぬ独特のものである。今回は、「博奕十王」という珍しい、面白い、賑やかな狂言を上演する。どのような反応が得られるか楽しみである。



番 組

解 説 石田 幸雄

火入の儀

素囃子 神 舞

大 鼓 飯島 大輔 太 鼓 麦谷清一郎  
小 鼓 住駒 幸英 笛 吉野 晴夫

狂 言 棒 縛

主人が留守の間に、太郎冠者と次郎冠者が盗み酒をすることに気づき、ある日一計を案じます。まず太郎冠者の両腕を左右に広げたままで手首を棒に縛り、次に次郎冠者を後ろ手に縛りつけ、そのままにして主人は外出してしまいました。さて、縛られても酒が飲みたい二人の冠者は、なんとか酒蔵までたどりつくのですが……。

太郎冠者 野村 万作 主 高野 和憲  
次郎冠者 野村万之介

後 見 小川 七作

狂 言 博 奕 十 王

人間が賢くなって、仏を頼って、みんなが極楽へ行ってしまうので地獄は飢饉となりました。そこで、閻魔大王は大勢の鬼どもを連れ、六道の辻まで出向いてきます。ここから亡者を地獄へ落とそうと待ち構えていると、博奕打の亡者がやってきます。浄玻璃の鏡に映すと、生前の悪業が現れたため、さっそく地獄へ責め落とそうとすると、博奕打はことば巧みに博奕の効用を説き、持参の賽をふってみせます。博奕のおもしろさに憑かれた閻魔と鬼たちは金札や鉄棒を打ち込みはじめます。

閻魔大王 石田 幸雄  
鬼 深田 博治  
鬼 高野 和憲  
鬼 小川 七作  
鬼 月崎 晴夫  
鬼 野村万之介

後 見 野村 良年  
黒沢 正蔵

囃 子 飯島 大輔 麦谷清一郎  
住駒 幸英 吉野 晴夫

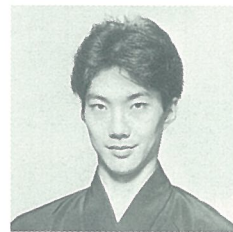


野村万作  
(狂言師)

1931年生。故6世野村万蔵（人間国宝）の次男。祖父及び父に師事。3歳で初舞台。早稲田大学文学部卒業。重要無形文化財総合指定者。古典はもとより新しい試みにもしばしば取り組む。狂言の最高秘曲である「釣狐」の演技で芸術祭大賞を受賞した他、紀伊国屋演劇賞、芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞など多くの受賞歴を持つ狂言界の第一人者。国内内外で狂言普及に貢献。1994年NHKで「釣狐に挑む」と題するドキュメンタリーが放映され、多くの人々に感銘を与えた。著書に「太郎冠者を生きる」がある。



野村万之介  
(狂言師)



野村萬齋  
(狂言師)



石田幸雄  
(狂言師)



小川七作  
(狂言師)